

## 【国はいま……中央防災会議「防災対策推進検討会議」中間報告】

本紙トップ記事(P. 1-2)を受けて、中央防災会議「防災対策推進検討会議」(座長:藤村 修・内閣官房長官)の「中間報告」の概要をレポートする。

「中間報告」は、副題を「東日本大震災の教訓を活かし、ゆるぎない日本の再構築を」としている。東日本大震災から1年を迎えたいま、「中間報告」の考え方を理解し、国の新たな防災対策の基本方針を読み解くことには大きな意味がある。なお、同最終報告は、検討会議の下に設ける「南海トラフの巨大地震対策」や「首都直下地震対策」等に関するワーキンググループの議論を検討会議の議論に反映して本年夏ごろにとりまとめられる予定。

以下、その概要をみる(編集部要約)――

### ■ 第1章:日本の持続的な発展に不可欠な防災対策

ここでは毎年防災白書に記述される「日本は世界的にも地震・火山・水害等の災害を受けやすい国」であること、また、これも私たち防災に携わる者にとっては常識的な認識である「近い将来懸念される巨大災害」について言及した後、「日本列島は、3.11以降大きく変化した。東日本大震災によって日本列島の応力状態に大きな変化が生じ、他の大規模地震や火山噴火を誘発するおそれがある。そしてそれは、過去にも同様の事例があること」としている。

そのうえで、大規模災害時は「複合災害」を考慮すべきこと、それを踏まえて政府の体制や指揮命令系統を検討、優先順位、担当主体の決定等を考慮するとしている。すなわち“想定外”への備えに万全を期すとする。

国としては、大規模災害は国力へのダメージに直結することから、「減災」と「早期回復」が防災対策の“使命”という考えだ。

### ■ 第2章:東日本大震災から学ぶもの～貴重な教訓や課題～

本テーマについては次のようにまとめている。

#### ▼災害応急対応はうまく機能したのか

課題として、警報の発表・伝達、発災直後の避難のあり方、情報発信・情報把握、医療、物資・輸送、海外からの支援受入れ、燃料、避難所の設置・運営、二次・広域避難、災害時要援護者への配慮、男女共同参画の視点、被災地方公共団体の体制、被災地を支える災害対応体制、防災ボランティア活動……などがあつた(ある)

<これに対する今後の対応>

→ 災害を予想することはできなくても、災害への対応に想定外はあってはならない。楽観的な想定ではなく、悲観的な想定を行う

#### ▼生活再建や復旧復興はスムーズに進んでいるのか

課題として、被災者支援全般、応急仮設住宅、医療・健康確保・心のケア、働く場の確保と産業振興、絆・コミュニティの重視、災害廃棄物処理、公共施設の復旧、ライフラインの復旧、復興の制度、対応体制……などがあつた(ある)

<これに対する今後の対応>

→ 発災直後に十分な情報を得て対策を行うことはできない。不十分な情報をもとに対策を行うための備え、訓練が必要

#### ▼事前の備えは十分であったのか

課題として、被害想定、対策の基本的考え方、地震・津波に強い国づくり・まちづくり、教訓の活用・伝承、教育、訓練、各主体との協働……などがあつた(ある)

<これに対する今後の対応>

→ ハード・ソフトのさまざまな対策により被害を最小化する「減災」に向け、行政のみならず、地域、市民、企業レベルの取組を組み合わせる

→ 甚大な被害が広範囲にわたり、住民避難や被災地方公共団体への支援等に関し、広域的な対応がより有効に行える制度の必要性を痛感

→ 阪神・淡路大震災で地震動による教訓を学んだが、津波による教訓はなかった。東日本大震災でも、津波による教訓だけではなく、被害が広域にわたったことや地震動による教訓等にも着目しなければならない

→ 災害対策に当たっては地域性と歴史性を踏まえる

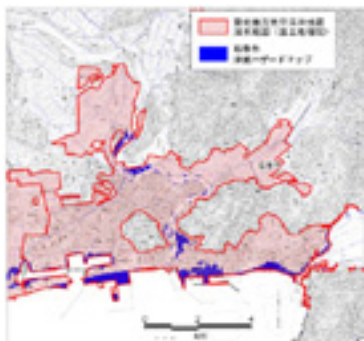
→ これらの教訓・課題を防災教育等を通じて後世に受け継いでいく並々ならぬ努力が大切

### ■ 第3章「ゆるぎない日本」の再構築を目指して

ここでは、大震災の教訓・課題を受け、行うべき防災対策の全般的見直しについて次のように言及している――

#### ▼災害から生命を守るために

<P.4へ続く>



東北地方太平洋沖地震の浸水範囲と石巻市津波ハザードマップの比較(「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」資料より)

被害総額について	
項目	被害総額
建築物等 (住宅、学校、店舗、事務所、工場、官公庁等)	約1兆4千億円
ライフライン施設 (水道、ガス、電力、通信、道路施設)	約1兆5千億円
公共施設等 (公園、図書館、青少年センター、児童館等)	約1兆2千億円
農林水産関係 (農地・農家畜舎施設、林業、水産関係施設等)	約1兆8千億円
その他 (工場施設、医療関係等・福祉関係施設、商業施設等施設、その他公共施設等)	約1兆1千億円
計	約7兆9千億円

「防災対策推進検討会議」資料より東日本大震災の「被害額推計」。建築物等の約10兆4000億円などのほか、総計で約16兆9000億円となっている



昨年(2011年)10月11日の中央防災会議で挨拶する野田佳彦首相。この会議で新たに「防災対策推進検討会議」を設置することが決まった。写真左は後に同検討会議議長となる藤村 修・内閣官房長官、右は同委員となる平野達男防災担当大臣(当時。現・復興大臣/東日本大震災総括担当大臣) 写真:首相官邸ホームページより

・円滑な避難のための情報伝達システム。避難者の安否情報システムの高度化検討。災害派遣医療チームの活動内容等の見直し。物資輸送は被災地の要請がなくても送り込む。「プッシュ型」の構築。民間との連携に留意など

#### ▼被災地を支える体制づくり

・大規模災害時における都道府県や国の調整による地方公共団体間の支援の仕組みの強化や、そのための受援計画の明確化。都道府県が広域避難に関する指示・調整を行うことができる仕組みの確立。市町村機能が著しく低下した場合や災害緊急事態における都道府県や国の対応のあり方を検討

#### ▼ニーズに応じた避難所運営

・避難所の位置付けの明確化

#### ▼スピード感、安心感がある被災者支援

・体系的な被災者支援制度への見直し検討。心のケア、生活不活発発病対策の円滑化。各段階での災害時要援護者への配慮。各段階での男女共同参画の視点の重視

#### ▼住まいの再建

・応急仮設住宅として民間賃貸住宅を借り上げる際の取扱いの整理

#### ▼復旧・復興をスムーズに成し遂げるための仕組み

・復興の枠組み検討と震災時の特別対策で有効なものは直ちに発動できる方策の確立

#### ▼大災害を生き抜くための日頃からの備え

・最大クラスの地震・津波の想定。ハード・ソフトが一体となった「減災」や「自助」「共助」の明確化検討。さまざまな組織・機会での防災教育、教訓の伝承・定着、訓練の推進。多様な主体(国・地方・民間・ボランティア・自治組織等)の連携協働による社会の総力を挙げた対策強化

#### ▼国境を越えた教訓の共有

・諸外国の防災力の向上に向けた情報発信

いっぽう、「発生が危惧される大規模災害に向けた備え」としての重点事項は――

#### ▼南海トラフの巨大地震:被害シナリオを踏まえた対策の見直し

#### ▼首都直下地震:関東大震災クラスの想定、首都中枢機能の確保

#### ▼火山災害:観測体制の充実等監視・観測のあり方、大規模火山噴火対策について

#### ▼大規模水害:広域避難、地下空間の浸水への対応

#### ▼複合災害:複合災害に備える体制や対策等を検討

### ■ 第4章:最終報告に向けて

最後に、広域災害はいつ起こるか分からないことから、「災害対応体制や法制度の改善を含め、具体的な内容を詰められるものから、最終報告を待たずに政策として実現」させること、また、徹底的な検証を継続し、具体的な対応について引き続き議論、改善・拡充・実施状況の継続的な把握・点検をする、としている。

[>>中央防災会議「防災対策推進検討会議」](#)



外国人被災者にとって情報入手は死活問題となる。弘前大学人文学部社会言語学・佐藤和之教授が主導して研究・開発した「やさしい日本語」が広く活用されている

### 東日本大震災で伝えた「やさしい日本語情報」を公開——弘前大学 ～知りたい情報と表現方法を抜き出すための検索機能～

外国人への災害情報の提供を外国語ではなく「やさしい日本語」で提供しようという研究・実践活動を進める弘前大学・人文学部社会言語学研究室(佐藤和之教授)は、東日本大震災の外国人支援にあたって「多文化共生マネージャー全国協議会」と「仙台市国際交流協会」から依頼を受け、外国人用災害情報を「やさしい日本語」化した。この成果を広く活用してもらおうと、そのときに提供された「やさしい日本語情報」を、東日本大震災から1年目の3月11日を期して、ホームページで公開した。

「やさしい日本語情報」は、「やさしい日本語」で外国人支援を考えている人、また「やさしい日本語」に興味を持つ人向けで、「やさしい日本語」による情報提供、「やさしい日本語」の表現方法を伝えることを目的とし、内容の整理と検索機能を充実させている。

具体的には、情報を探す際にはキーワード検索、時系列表、カテゴリ表の3つを利用することができる。時系列表では、依頼を受けて翻訳したすべての情報をカテゴリ別にし、時系列順に並べた。カテゴリ表では、カテゴリ内の情報を種類別に見ることが可能。

こうした工夫によって、「やさしい日本語」の基本の文型や外国人によく伝わる情報の配列順などを知ることができる。また、ここに掲載されていない災害状況が起きた場合でも、新たな文章を作ったり、「やさしい日本語」による言い換え表現を探したりすることができる。

[>>東日本大震災で伝えた「やさしい日本語」](#)

[～知りたい情報と表現方法を抜き出すための検索機能～](#)